

編 集 後 記

今年も、あっという間に1年が終わりそうです。つい先日、12月の編集後記を書いた気がしますが、それは昨年のものでした。世の中では、大きな変化があった年でした。日々の診療も、大きな変化を感じています。私が、一番困っていることは、患者さんがいつもマスクをされているので、お顔の表情がわからないことです。初診患者さんで、お顔もわからないまま診察を行うのはよいことではありませんし、こちらの顔をお見せしないのも（見せるほどのものではないことはよくわかっています）、なんとなく最初から距離感があってすっきりしません（結局、患者さんのマスクはとっていただいています）。脳神経内科の診療では、神経学的診察はゴールドスタンダードです。難しい状況もあるでしょうが、どのような状況でもきちんと診察を継続したいものです。

マスクといえば、新しい仲間の素顔がわからないのも結構大変です。考えてみれば、一度も素顔を拝見したことがない方がたくさんいます。もともと、存じ上げている方はマスクをしていても、その向こうの顔を想像して話しがで

きますが、初対面からマスクのままだと、この先もずっと素顔を拝見することがないのかと思うと、少し怖い気がしました。

学会のスタイルも変わりました。6月に米国の学会にズームとライブで参加したときは、時差があって夜中の発表でした。質問はチャットで来ますし、通常の学会よりもよくスライドが見られたりと、良いこともありました。そのためか、この形式も面白いと思っていましたが、正直少し飽きています。いずれにしても、いろいろ世の中が変わっていることは間違いありません。

そういった中、会員の皆様には2020年も多くの論文を投稿してください、ありがとうございました。おかげさまで投稿数も順調に増加しております。学会などが減るなか、ぜひ臨床神経学をご活用いただき、あたらしい知識の交流の場としていただければと思います。会員の皆様のご期待に応えられますよう、編集委員会も頑張っていきたいとおもいます。どうぞ、よい新年をお迎えください。

(高尾 昌樹)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡 古賀 政利
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」 第60巻 第12号 2020年12月1日発行
 編 集 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発 行 者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸 田 達 史
 印 刷 所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 経 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>